

# 赤かび病防除の準備はお早めに！

令和8（2026）年4月1日

那須農業振興事務所

- 11月中に播種されたほ場では、茎立期を迎えています
- 出穂期は **4/21~4/27** と予測（気温が平年+1℃で推移した場合）
- 予測より出穂期が早まる可能性が高い  
→早めに赤かび病防除の準備をしましょう
- 今後1か月は赤かび病が多発しやすい気象条件→適期防除の徹底を！

## 1 茎立期と予測出穂期（3/30 現在）

ほ場場所	播種日	茎立期※ <sup>1</sup>	予測出穂期(暫定値)※ <sup>2</sup>
湯津上（佐良土）	11/14	3/22	4/24
大田原南部（片府田）	11/20	3/25	4/26
大田原北部（北金丸）	11/22	3/23	4/25
	11/29	3/28	4/27
黒羽（大輪）	11/5	3/3	4/21
	11/16	3/15	4/22
(R7 参考) 湯津上	11/12	3/23	4/20
大田原南部	11/17	3/23	4/15
大田原北部※ <sup>3</sup>	11/25	3/28	4/26

※1 茎立期：幼穂長が2cmに達した日

※2 茎立期以降の日平均気温を用い、下記式より予測（「令和6年産麦の栽培技術指針」より）

$\Sigma$ （日平均気温-4.63（有効下限温度：℃） $\geq$ 215.38（有効積算温度：℃）

上記の値が215.38℃を超えた日を出穂期と予測している（日平均気温は大田原アメダスデータ）

※3 R7年産と調査ほ場が異なるため参考値

- 11月中に播種されたほ場では、茎立期を迎えています
- 3/30現在の生育は昨年並みです
- 今後1か月は、気温が平年より高く、降水量は平年並みの予報（2 関東甲信地方1か月予報参照）のため、以下の2点に注意しましょう
  - ① 出穂期が早まる可能性が高い→早めの赤かび病対策準備をしましょう
  - ② 赤かび病が多発する可能性が高い→適期防除の徹底を心がけましょう

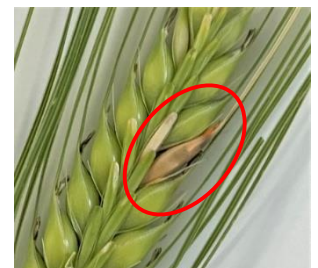
## ○赤かび病

赤かび病の原因となる菌は、人畜に有害なかび毒を産生

→混入するとロット全体が販売できなくなる

発生させないよう、必ず薬剤防除を実施しましょう！

（農薬使用前に、必ず最新の登録内容を確認してください）



赤かび病に罹患した麦  
（不稔穂の先端にかびが見られる）

- 防除適期：穂揃い期（ほ場全体の8～9割が出穂した頃）の7～10日後  
防除適期の目安としては、  
麦の先端から葯殻が見え始める時期



防除適期の二条大麦

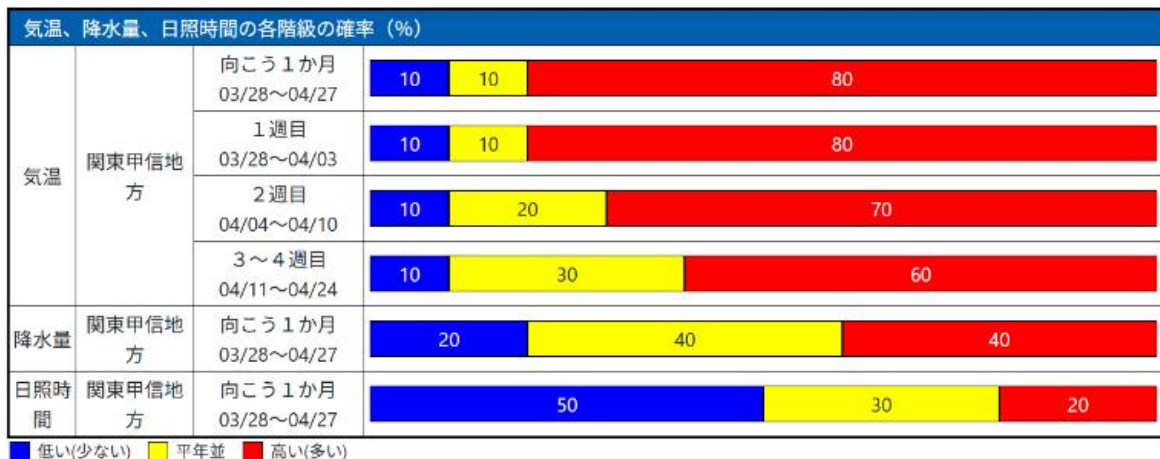
※矢印で示した黒い部分が葯殻

（出典：栃木県農業総合研究センター）

※不稔粒の発生、登熟期の連続的な降雨などで赤かび病が多発するおそれがある場合は、2回目の防除を検討する  
（2回目の実施時期：1回目の7～10日後）

## 2 関東甲信地方1か月予報（気象庁、3/26発表）

平年と比べて、気温が高い確率が80%、降水量が多い確率が40%



**農作物や農業機械の盗難に注意しましょう！**

- ☑ 収穫物・農業機械はほ場に放置せず、納屋等に保管しましょう！
- ☑ 納屋等は施錠しましょう！



不審な人物・車両など見かけたら、特徴や車のナンバーなどをメモし、警察へ連絡！